

No. 26

9月号

令和6年
2024・8・20



日立市視聴覚センター通信

みて、きいて、学びを楽しく

みきまた

編集・発行
日立市視聴覚センター
〒317-0073
日立市幸町1-21-1
電話：0294-24-5055
FAX：0294-24-5066

主な参考資料：『新郷土日立 歴史』2007 日立市教育委員会

3 みょうりきおしょう てんぐ 明力和尚と天狗伝説

特集

ま か ふ し ぎ きょうの豆腐 摩訶不思議 きょうの豆腐



出典：yahoo マップに追加掲載

「明力和尚と天狗伝説」は、日立市宮田町にある天童山大雄院に伝わる伝説で、大雄山最乗寺（神奈川県南足柄市）の明力和尚という偉いお坊さんがまだ小僧であったころのお話です。

とんと昔、明力小僧が先輩兄弟子から「きょうのとうふを買ってこい。」と言われ、引き受けたのはよかったが、「京都の豆腐」と聞き違いをして門前で泣きだしてしまっただけ。その時、現れた天狗に京都の豆腐について泣きながら話すと「よし分かった。わしが助けてやろう。わしの背中に乗れ。いいか。目をつぶっておれよ。」というなり天狗は大きく羽ばたき天空へと飛んだ。しばらくしてから目を開けるとそこは京都であった。豆腐を買って、また目をつぶると天狗は天空に風を切るように飛んで元の山門に戻った。まるで夢でも見ているような気持ちでいると、兄弟子の声で我に返



わたちの民話紙芝居『明力和尚と天狗伝説』
2019年 福田 暎 制作

たと。きょうの豆腐を買ってきたと得意になって差し出したところ、逆に「遅いではないか、どこまで行った。」と問われたので「きょうの豆腐なので、京都まで。」

「なに京都だと、馬鹿を言え。」としかりながらその豆腐を見ると「京」の文字が浮き出た本物の京の豆腐だったと。兄弟子たちは皆びっくりするやら、呆れるやら、ただただため息が出るばかりだったそう。

出典：『わたちの民話』(2009 伊藤正夫・大越育)を要約

このお話は、文明2年(1470)曹洞宗・天童山大雄院を開山された南極寿星 禅師が学徒や里人に講話をされる時にしばしば話されたお話です。時代は文明年間ですから、今から550年以上前のことです。南極寿星は常陸国に禅宗の教えを広めようと、田尻村渡志観音堂で祈願されたところ、一頭の白馬が現われ、この白馬によって導かれたところが、宮田川溪谷の杉室の地であったと言います。山



春の天童山大雄院

中に庵を結び坐禅したといわれる「座禅石」が今でも残っています。周囲の風景が中国の天童寺に似ているところから山号を天童山、寺号を相模国南足柄にある祖本寺の大雄山最乗寺にちなみ大雄院と名付けたそうです。山尾城(十王町)の城主・小野崎朝通の支援により寺が創建され、江戸期には水戸藩からも厚い支援を受けました。明治41年(1908)日立鉱山の発展とともに中央精錬所が建設されることになり、天童山大雄院は杉室から現在の地に移転しました。

当センターには、天童山大雄院を知るためのオススメの作品として『日立の文化財めぐり・中部編』(17分・2009年)があります。

大雄院では、毎週金曜日、早朝に座禅会が開催されています。

多忙な日々を送っている自分と向き合いながら、心静かに瞑想する体験を試みてはいかがでしょうか。

おくりびと

監督：滝田洋二郎 音楽：久石譲

出演：本木雅弘・広末涼子・山崎努・峰岸徹

第81回アカデミー賞外国語映画賞、第32回日本アカデミー賞最優秀作品賞

死に対するイメージが変わる作品。人間の最後の送り出しを、丁寧に美しく描いている作品です。納棺師、そこに至るまでの挫折、心の葛藤がとてもしリアルに表現されて、ストレートに心に響く作品です。

今月の
オススメ
六串



公開：2008年

時間：130分

貸出番号：1200515